

4 教育理念

基本理念

1. 建学の精神
「感恩奉仕」に則ったキリスト教主義の人格教育
2. 教育研究
幅広い教養教育（リベラル・アーツ教育）と専門領域における高度な教育研究
3. 社会への貢献
福祉と社会・文化の向上に資する人材の育成

教育目標

グローバルな視野とボランティア精神を培い、専門に関する基礎を身に付け、バランスのとれた判断のできる、人間性が豊かで、対人的配慮を有した人材の育成を図ります。

1. 志を高く持ち、継続的に努力をする人
2. 確かな倫理観を持ち、社会・文化の向上に貢献する強い意志を有する人
3. 本学の理念と特色を理解し、学ぶ意欲の強い人

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

卒業に必要な所定の単位を取得し、下記の資質・能力を修得した学生に学位を授与します。

◆学部◆

1. グローバルな視野を持って国内外の社会の動向に関心を持ち、多様性を尊重しながら、それぞれの専門領域で求められる知識・技能を身に付けることができる。
2. 修得した知識や技能をそれぞれの専門の領域における課題を解決するために生かすことができる。
3. 「感恩奉仕」の精神に基づき、他者を尊重し、他者のために自分が修得した能力を感謝の気持ちと共に主体的に還元できる。

◆共通教育◆

1. グローバルな視野を持ち、多様な価値観を受け入れることができる力
2. 社会のさまざまな分野で活動できる知識やスキルを身に付ける力
3. 地域や社会の変化とニーズに対応できる力

◆人文学科◆

【キャリア・イングリッシュ専攻】

1. 国際社会や実務で通用する英語の4技能・5領域を修得し、実践的で高度な英語コミュニケーション能力を身に付ける。「知識・技能」
 - (1) 英語の4技能・5領域の修得
 - (2) 実践的で高度な英語コミュニケーション能力を身に付ける。
2. 英語圏の社会・歴史・文化・言語・文学の各領域への理解を深め、国際的で学際的な視野を持つことができる。「思考力・判断力・表現力」
 - (1) 英語圏の社会・歴史・文化・言語・文学への深い理解を身に付ける。
 - (2) 国際的で学際的な視野が持てる。
3. 社会の課題を自己に関わる問題として捉え、自国の文化だけでなく異文化も理解・尊重しながら、多様な人々と関わる協働性を身に付ける。「主体性・多様性・協働性」
 - (1) 社会の課題を自分事として捉え、自分の行動につなげることができる。
 - (2) 自分と異なる人や文化を尊重でき、多様な人々と関わるができる。
4. 社会の出来事や課題に関心を持ち、大学で獲得した知識やスキルを活かしながら、必要な情報を収集・分析し、自ら課題を発見して解決策を提示することができる。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」
 - (1) 社会の出来事や課題に関心をもち、それを発信・説明することができる。
 - (2) 獲得した知識やスキルを活用し、課題解決につなげることができる。

【保育・幼児教育専攻】

1. 保育・幼児教育の考え方や理論を理解し、保育・幼児教育の現場で必要な専門的知識を身に付け、現場等で活用することができる。「知識・技能」

2. 保育・幼児教育の様々な研究法や技法について、実践を通して理解できる。「知識・技能」
3. 他者との協働的・実践的な学びを通して、対応力・判断力を高め、適切に活用し、課題解決を行うことができる。「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」
4. 多様な他者を理解、尊重し、他者と共生する社会の形成に向けて、国内外の社会動向に関心をもち、乳幼児理解の視点を生かしてアプローチすることができる。
「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」

【児童教育専攻】

1. 教育の基本、学校教育や学習指導のあり方を理解し、児童等の多様な教育的ニーズに応じた適切な配慮や指導を行うための知識等を身に付け、一人一人の児童等のよさや可能性を伸ばすことができる。「知識・技能」
2. 指導に関する基本的な技能を身に付けると共に、児童等の実態を多面的に把握し、様々な情報を効果的に活用しながら、適切に児童等を指導することができる。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」
3. 教育者としての使命・責任を理解し、児童等の将来や社会のために、チーム学校の構成員として他者と協働し、課題の解決に取り組むことができる。
「知識・技能」「主体性・多様性・協働性」
4. 多くの実習やボランティア活動等を通して得られた経験を統合し、地域や児童等の多様な実態に相応しい指導計画を創造し、持続可能な社会の担い手を育成することができる。
「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」

◆心理臨床学科◆

1. 人間理解・共感・回復力：人を「生物-心理-社会」モデルの視点で理解し、その人がもつ個性と多様性を尊重することができる。自己理解を深めながら、自己とは異なる他者の苦悩や立場をありのままに理解することができる。そして、他者との関わりを通じて自己の心や感情を受けとめ、しなやかな心を取り戻し、自己に活力を与えることができる。
「知識・技能」「主体性・多様性・協働性」
2. 分析・発信力：個人と社会の視点から、多様な手法を通して現象を調査・分析・考察し、発見された課題とその解決方法を適切に発信することができる。
「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」
3. 対応・判断力：他者との交流による学びや社会・世界動向を通して、現象を熟考・整理して課題を評価し、多様なアプローチを検討することができる。
「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」
4. 倫理観：自己及び他者の基本的人権を尊重し、他者の利益と幸福に貢献することができる。
「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

◆共通教育◆

- 1 初年次教育領域
 1. 自ら課題を発見して思考・判断することができる。
 2. 適切な表現方法を身に付けている。
 3. 他者と共有・解決のための行動・発言をすることができる。
- 2 キリスト教領域
 1. 人を尊重し、いのちを育んだり慈しんだりする態度を身に付けている。
 2. キリスト教精神に基づいて真に平和な世界を創り出そうとする態度を身に付けている。
- 3 教養コア領域
 1. 地元地域や多様な文化・社会を理解して貢献しようとする態度を身に付けている。
- 4 一般教養領域
 1. 社会を生き抜くために必要な教養を身に付けている。（人文科学）
 2. 社会を生き抜くために必要な教養を身に付けている。（社会科学）
 3. 社会を生き抜くために必要な教養を身に付けている。（自然・情報科学）
- 5 健康・スポーツ領域
 1. 身体的な健康・安全に関する教養を身に付けている。
- 6 外国語領域
 1. 外国語でコミュニケーションをとることができる。

7 体験学修領域

1. 社会や異文化で生活・活動するために必要な知識と技能を身に付けている。

8 キャリア教育領域

1. 社会的・職業的自立を図るために必要な教養と態度を身に付けている。

◆人文学科◆

【キャリア・イングリッシュ専攻】

1 教育課程編成

1. グローバルにも活かせる英語力とビジネスリテラシー

高度な英語運用能力とグローバルな視野を持った学生を育成するために、少人数の習熟度別英語クラスを編成し、1、2年次では英語の4技能・5領域をバランスよく伸ばすために週2～3回の集中的な授業を行います。また、同時に英米社会を幅広く学ぶ科目やビジネスに関する理解と基礎知識に加え、我々の周りに溢れる様々なデータを適切に分析し可視化するスキルを学ぶためのデータサイエンス関連科目も開設します。3年次からは、少人数ゼミと並行し、専攻内の2つのコースと関連する、より専門的で高度な科目群を開設し、学生の専門的知識やスキルを育みます。

■代表的な科目：「Advanced Communication English I～IV」「Communication English I～IV」「リーディング&ライティング演習 I～IV」「グローバルビジネスI～IV」「エアライン・ツーリズム講座」「データサイエンス応用」等

2. 知識の実践と体験学修

国内や海外の様々な出来事や動向に関心を持ったグローバル人材になるためには、修得した実践的な英語運用能力、異文化や社会についての知識、国内外のビジネスについての知識を実際の場面で実践することが必要です。さらに高度な英語コミュニケーション科目やビジネス系の科目、データサイエンス関連科目などで英語やビジネス、データサイエンススキルを磨き、企業等でのインターンシップ、小学校英語活動、教育実習、教育現場体験等の様々な体験学修を通じて知識と実践力の融合を図ります。

■代表的な科目：「スピーチ&ディベート I & II」「ビジネス・イングリッシュ I & II」「国際ビジネス論」「企業経営論」「プロジェクトデザイン I & II」「データ解析演習」「プログラミング応用」「小学校英語フィールドワーク」等

3. 多様性の理解と表現する力

グローバル化が進む現代では、異なった価値観や海外の文化に対して関心と理解を持ち、自己の意見を積極的に発言・発信できる力が必要となります。また3、4年次では、それまでに身に付けた専門知識やスキルを活かして、議論したり表現したりする双方向のコミュニケーションを高めるための授業や、学生自らが発見したテーマや課題について研究し、成果をプレゼンテーションできるようにゼミを行います。

■代表的な科目：「異文化理解 I & II」「Global Issues in English」「Cultural Comparisons」「Advanced English Project」「特別研究」「卒業研究」等

2 学修方法

1. 少人数教育

英語教育において、入学時のプレイスメントにより、学生の英語力にふさわしいクラス編成を行い、ネイティブ英語教員による少人数クラスで英語4技能5領域をバランスよく伸ばします。その他の専門科目においても、少人数制を活かし、自己や他者に対する理解を深め、異なる人々と建設的に関わる対人関係スキルを養います。

2. アクティブ・ラーニング

講義形式の授業を通じた知識の修得だけでなく、様々なテーマについてグループワークやディスカッションを行うことで、互いに学び合い、視野を広げ、多様性を育み、協働できる力を身に付けます。また、プレゼンテーションなど発表の場を多く設け、能動的に学び、自ら発信する力を伸ばします。学生が主体性を持って授業に参加することで、社会で役立つ様々なライフスキルも養います。

3. 体験学修

フィールドワーク：熊本県内での小学校において、アシスタント教員として英語指導ボランティア活動を行い、英語指導の実践的な指導スキルを身に付けます。

連携機関における体験学修：ビジネス系の科目において、主に熊本県内の企業・NPO・行政との連携を活かしたインターンシップやサービスラーニングを実施、具体的な課題について学びながら、社会の仕組みを学びます。

4. 卒業研究

これまで学修した内容や特別研究での研究成果の集大成として卒業研究にまとめます。担当教員の指導を仰ぎながら、先行研究を踏まえた文研研究、フィールドワークやプロジェクト・ラーニングなどを通じて得た成果に基づく事例研究などを日本語または英語で卒業研究にまとめていきます。研究成果は卒業研究発表会で発表します。これらの過程を通じて、社会に必要なデータ収集・分析力、論理的思考力、プレゼンテーション力の向上を目指します。

【保育・幼児教育専攻】

Ⅰ 教育課程編成

1. 保育・幼児教育の専門性と人間性

保育・幼児教育に携わる者の倫理観、専門職としてのモラル・人間性を培うために、1年次より人格形成のための講義を計画的に取り入れ、保育者としての力量を高めます。また、1～4年次生の教科を関連させ、学びの系統性を踏まえ、総合的な学修力を身に付けます。

■代表的な科目：1年次「キリスト教Ⅰ・Ⅱ」「哲学」「教育原論」

2年次「保育原理」「キリスト教と倫理」3年次「キリスト教保育」「キリスト教と文学」

2. 保育・幼児教育における理論と実践の融合

大学で学んだ理論を実践に結びつける教科統合型の総合的な力を育成することにより、実習の質と内容の充実を図りながら、理論と実際を結び付ける実践力の育成を目指します。2年次以降に始まる保育実習、幼稚園教育実習前に関連科目を配置し、これまでの学びを基に、実際についての理解を深めるとともに、指導案作成、模擬保育等を通して実践的な力を身に付けます。

■代表的な科目：1年次「保育内容（総論）」「こどもと言葉」「こどもと表現Ⅰ・Ⅱ」

2年次「保育実習指導Ⅰ」「ルーテル系幼稚園等現場体験学修」「保育実習Ⅰ」

3年次「保育実習指導Ⅱ」「幼稚園教育実習指導Ⅰ」「保育実習Ⅱ」「幼稚園教育実習Ⅱ」

4年次「子育て支援フィールドワーク」「異文化体験学修」等

3. 乳幼児理解と技能教科の充実・強化

乳幼児理解と保育・幼児教育に必要な表現（音楽・造形・身体・環境構成等）の基本的な知識と技能の向上を深めます。

■代表的な科目：1年次「器楽Ⅰ・Ⅱ」「保育内容（表現Ⅰ・Ⅱ）」

2年次「音楽表現Ⅰ」「保育内容の理解と方法Ⅰ・Ⅱ」「保育内容（健康）」

3年次「音楽表現Ⅱ」「保育内容の理解と方法Ⅲ」を設置し、様々な表現方法を学び、実践します。4年次「音楽表現Ⅲ」

4. 研究的視点の醸成

3年次後期から、それまでに身に付けた専門知識をもとにして、学生自らがテーマを設定して取り組むゼミ形式の研究活動で課題に取り組みます。3年次後期に「特別研究」、4年次に「卒業研究」を配置し、それらを通して課題を探究し、考察します。

2 学修方法

1. 初年次教育

初年次には、「フレッシュマン・ゼミ」において、ノートの取り方やレジュメの作成方法などの学修の基本や発表、プレゼンテーションの仕方等の保育者になったときの基礎について学修します。

2. 基盤教育

保育・幼児教育に携わる者の倫理観・専門職としてのモラル・人間性を培うために、1年次より共通教育科目を積極的に履修し学修します。

3. キャリア教育

保育者に求められる教養や職務を遂行するための基盤を学修します。すべての科目においてアクティブ・ラーニングを取り入れ、グループワークやディスカッション等を通して主体的に学修します。

4. 卒業研究

4年間の学修の集大成として、自らたてた問いについて文献研究、調査、事例研究等の研究方法を用いて探究します。その成果を論文としてまとめ発表します。また、保育・幼児教育専攻ではその学修内容から研究論文の形式にこだわることなく、その他の発表形態でも認められます。

5. 特色ある教育

初年次においては保育者としての「人」としての教養教育を主とし、保育・幼児教育についての基礎的な学修をします。さらに、3年次より4つのコースの特徴を取り入れた専門教育を配置し、レイト・スペシャライゼーション型の教育プログラムとして、学生が学びながら選択していくことを可能とします。また、国内外でのフィールドワークを通して理論と実践の往還を目的とした学修をします。

【児童教育専攻】

1 教育課程編成

1. 2つの教員免許状カリキュラムの配置と取得

小学校教諭一種免許状を取得できるカリキュラムの配置を基盤として、これを基礎免許状とした特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）を取得できるカリキュラムを配置します。

2. 4年間を貫く教師力向上のための体験及び実習

初年次から4年間を通して地域の多様な教育現場を知り、学校教育の実際から指導・支援についての理解を深め、実践力を身に付けるために、地域の学校の協力のもと、さまざまな現場体験や実習（「小学校教育実習」「特別支援学校教育実習」等）を行う機会を各学年において配置し、小学校及び特別支援学校の教師としての総合的な資質向上を目指します。

3. 確かな児童理解に基づいた指導力を育成する授業科目

いじめや不登校等、多様化する教育課題に対応できる実践的指導力を育成するため、児童理解に基づく児童等への指導、キャリア教育及び教育相談等の理論及び実践に関する科目を配置します。

4. 小学校教師としての指導力を高めるための授業科目の配置の工夫

各教科について、小学校教諭一種免許状取得のために位置づけられた科目が教育実習の授業実践につながるよう初年次から3年次の教育実習前までに関連科目を配置し、教科内容の理解を深めると共に、指導案の作成・模擬授業等により、ICT等を活用した実践的な指導力を高められるようにします。

5. 多様なニーズの場での特別支援教育が実践できるための科目内容の工夫

特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）の科目においては、特別支援学校や特別支援学級における教育だけでなく、通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童等に対する教育が実践できる内容を取り入れます。

6. 児童教育及び特別支援教育に関する課題の探究と考察

3年次後期から、学生の希望により担当者を決め、テーマを設定して取り組むゼミ形式の研究活動「特別研究」（3年次後期）及び「卒業研究」（4年次通年）を配置し、児童教育及び特別支援教育に関する課題を探究し考察します。

2 学修方法

1. 初年次教育

初年次には「フレッシュマン・ゼミ」において、ICTを活用したレポートや図表、プレゼンテーションの作成等の学修の基本やグループワークにおけるコミュニケーション能力を身に付け、将来教壇に立った際の学級づくりのあり方についても学修します。

2. 基盤教育

社会の様々な諸課題を多面的に把握できる素地を形成するために、初年次から共通教育科目を積極的に履修し、人間の文化的・社会的活動と社会との関わり、心身の健康、人間の多様性、科学的な考え方に関して学修します。

3. キャリア教育

社会人として必要な見識や職務を遂行するために持つべき力を高め、教師という職業を志向する基盤を学修します。また、グループワークやディスカッション等を初年次から積極的に取り入れ、主体的に学び、他者の意見を適切に解釈できる力を育成すると共に、座学による学修と臨床的見地を往還させ、教師の社会的意義を理解します。

4. 卒業研究

文献研究、調査・実験研究、事例研究等の実証的な研究手法を用い、人間と社会における多様な現象について自ら立てた問いを探究し、その成果を論文として取りまとめ、発表します。これらを通じて、初年次から4年次までの学修で培った問題認識・解決能力、科学的手法

を用いた分析力、論理的思考力、プレゼンテーション能力、他者と協働する力等を身に付けます。

5. 専門教育

初年次には学校教育の基礎的理解に関する科目と児童教育の基礎となる小学校教科に関する科目について学修します。2年次には小学校教科の指導法を学び、教育方法等に関する基本的知識を身に付けます。さらに特別な支援を必要とする児童等の心理・生理・病理に関する科目を学び、多様な教育的ニーズに応じた指導・支援についての知識・技能を身に付けます。3年次にはICTの具体的な活用、集団マネジメント力及び教育諸課題への対応等について学びを深めます。さらに、特別な支援を必要とする児童等の教育課程・指導法を学び、特別支援教育の視点に立った指導・支援を展開できる力を身に付け、小学校での教育実習を行います。4年次には特別支援学校での教育実習を通して、個別的教育支援計画等に基づく指導・支援の重要性やその多様な教育方法について学修します。

さらに学校現場を知り、小学校・特別支援学校等教師としての資質を高めるため、「教職実践演習」を学びます。

第一に、特別な支援が必要な児童等に適切な指導・支援ができる教師を養成するために「小学校教諭一種免許状に関する科目と特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）に関する科目」の履修を推奨します。

第二に、4年間を通し、地域の小学校または特別支援学校での教育・支援活動に取り組み、日常の授業準備、指導や校務等を含む学校生活の流れや対応について学修します。特に教師が一人一人の児童等の実態を適切に把握し、授業のユニバーサルデザイン化をはじめとする多様な手立てを講じながら教育活動を展開していることを体感・体得します。

第三に、先進的学校の視察や教育行政担当者等による教育の実践に関する講話等を通して、グローバルな教育現場に対応できる国際理解力や地域の児童教育の実践や教育課題を総合的・客観的に把握する力を身に付けると共に、本学卒業生の現職教員との交流を通して卒業生との縦のつながりを強固にし、ネットワークを構築・活用した教育力を身に付けます。

◆心理臨床学科◆

1 教育課程編成

1. 共通教育では、基本的に人・社会・自然科学分野の科目を幅広く学びます。さらに、心理学やソーシャルワークの専門的理解の土台を築くことを目指すため、心の理解、障害の理解、社会福祉に関係する制度や法律などに関わる科目、対人援助専門職に相応しい姿勢・態度を培う科目を用意しています。例えば、「人間と障害」「法学」「人権論」などです。
2. 専門教育では心理学とソーシャルワークの基本的な考え方を身に付けてもらうため、全員に1・2年次の心理学と精神保健福祉学の導入科目を必修としています。必修科目「心理臨床学の展開」では、教員の研究・実践活動、公認心理師・精神保健福祉士として働いている卒業生、その他一般企業に就職している卒業生の講話を聴く機会を設け、コースや進路の選択を後押ししています。また、学生が心の健康を保持していけるように、「認知行動療法」という科目でストレス対処の技法を学びます。専門分野への理解を深めながら自分の興味関心にあったコースを2年次に選択する制度をとっています（レイト・スペシャライゼーション）。
3. 心理学コースの専門教育は、公認心理師の資格取得に必要な科目を履修・取得することを目標としています。医療・福祉・教育・司法・産業領域における心理学の各論の他「心理的アセスメント」や「心理学的支援法」などで心の健康や支援のあり方を学修します。これらを基本として「心理演習」で心理的支援が必要な方を支援につなぐ方法や他職種との連携のあり方や技術等を学び、「心理実習」を通して多様な場面で活かせる実践力を養います。
4. 人間科学コースでは、自分の興味・関心・ニーズにあわせて、人間の総合理解につながる学びを自由にカスタマイズできます。一般企業への就職や心理・福祉の研究者を目指す学生のために、人間の心理や社会動向を定量的に計測する心理社会調査やデータ解析関連科目（例えば、「心理学研究法」や「心理学統計法」等）を系統的に配置し、その過程で社会調査士や認定心理士（心理調査）資格も取得できます。そして「人間科学研究実習」では、人間とその心に関する調査を企画して定量的・定性的に分析した成果を内外に報告するまでを体験して人間の持つ可能性と多様性への理解を深めます。

5. 精神保健福祉コースは、精神保健福祉士資格取得に必要な科目を履修・修得することを目標としています。資格取得に必要な科目（例えば、「精神保健福祉の原理」や「ソーシャルワーク実習」等）を通して、ソーシャルワークの視点で現代の精神保健福祉の課題とその解決方向について学び、ひとりひとりの心の健康を社会との関係として解釈し、心の健康を取り戻していくための知識と実践力を身に付けることができます。また、精神保健福祉士受験資格だけでなく、それを前提としたスクールソーシャルワーカーになるための科目（例えば、「学校ソーシャルワーク論」や「学校ソーシャルワーク実習」等）も用意し、医療・福祉・教育・司法・産業領域、および地域で幅広く活躍できる精神保健福祉士の養成を目指しています。

2 学修方法

1. 知識・理解を深めるための講義

従来の講義だけでなく、アクティブ・ラーニングを導入し、学生と教員・学生同士が互いを活かし合える環境をつくり知識と理解を深めていきます。また、困難と付き合い地域で生活している障がいのある方や支援している方の声を聞き、ともに活動し語り合うことを通して体験と知識をつなぐ基本的姿勢を身に付けていきます。

2. 分析・発信力を高めるための実験・実習

心と社会との関係に基づく様々な現象の意味とその根拠を、心理テストや行動観察・統計ソフトを使用した分析などの実験・実習を通して、心理学の基礎的スキルを修得し、データ収集・分析・評価の方法と、その結果を考察し発信する研究の方法について学びます。

3. 対応・判断力を高めるための演習・実習

多様な人々のニーズを深く理解し対応するスキル（スキル）をカウンセラーやソーシャルワーカーとして豊富な経験をもつ教員とともに実践的に高めていきます。また体験学修や心理・精神保健福祉の実習、他大学との交流や自治体等との連携・協力など様々な場所でのフィールドワークを通じて、現場や地域・そこにいる人々から学びます。

4. 卒業研究

学修の集大成として卒業研究を行います。文献研究、調査・実験研究、事例研究等の実証的な研究手法を用い、人間と社会における多様な現象について自ら立てた問いへの答えを探究し、その成果を論文やプレゼンテーションで発表します。これらの過程を通じて、学科の専門教育で培ったデータ収集力、科学的分析力、論理的思考力、プレゼンテーション力、他者と協働する力などを総合的に伸長します。

【全学科、専攻共通】

3 学修課程・成果の評価

1. 各科目の成績評価：科目の到達目標に照らして学生の学修過程・成果を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の観点から評価したものを成績とし、優れた成績に集中しないよう厳格な評価を実施します。
2. 科目と学位授与方針での修得目標である資質・能力との関係を明示し、履修した科目の成績評価に基づいてその各資質・能力の学修到達度を可視化します。
3. 本学の修学ポートフォリオで学位授与方針に定めた資質・能力の学修到達度やその他の学修成果記録をもとに学生が資質・能力を自己評価・点検したり担当教員が面談で履修・学修指導をしたりして、学生の主体的な学びを促します。
4. 卒業研究は、授業の参加と研究への取り組み、卒業論文（課題設定・資料やデータ収集と分析・論文構成とテーマの考察、論理性、客観性・引用や参考文献と著作権法の遵守など）と卒業研究発表（プレゼンテーション）を評価し、評価観点別に到達度を基準化したルーブリックを用いて評価します。

入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

学位授与の方針や教育課程編成・実施の方針を理解し、以下のような意欲・態度・資質を備えた人を学生として受け入れます。

◆人文学科◆

【キャリア・イングリッシュ専攻】

1 求める学生像

1. 英語に興味があり、英語力を伸ばしたい人、英語力やデータサイエンスの知識を活かした職種に就きたい人
2. ビジネス分野や持続可能な社会づくりに関心がある人
3. 異文化やグローバルな課題に関心があり、多様な環境で活躍したい人
4. 学ぶ意欲があり、異なる人々と関わりながら、社会で活躍するためのライフスキルを身に付けたい人
5. 英語教育（中・高教諭やこども英語教育）に関心がある人

2 入学前までに身に付けておいてほしい力

1. 知能・技能

- ・ 高等学校までに共通して学ぶ教科・科目についてのバランスのとれた幅広い基礎学力と基本的生活習慣を身に付ける力
- ・ 基礎的な英語力に加え、高度な英語の学びや積極的なコミュニケーションへの意欲
- ・ 実用英語技能検定2級、GTEC 930点レベルの英語力が望ましい

2. 思考力・判断力・表現力

グローバルな問題に対する関心、多様性への理解と寛容な姿勢

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・ 自ら考えて行動する力、様々な活動に積極的に挑戦する意欲
- ・ 世界や持続可能な社会づくりへの興味・関心
- ・ 学んだことを活用し、他の人たちと協力して取り組む能力

【保育・幼児教育専攻】

1 求める学生像

1. 子どもと子育て家庭への支援力を持った保育者を目指す人
2. 保育・幼児教育に興味・関心をもって深く学び、専門的知識・技能を身に付け、将来保育者として活躍したい思いを持つ人
3. 子どもを取り巻く世界や文化、保育・幼児教育に関心を持ちその成長を支援したい人

2 入学前までに身に付けておいてほしい力

1. 知識・技能

高等学校までに共通して学ぶ教科・科目についてのバランスのとれた幅広い基礎学力と基本的生活習慣を身に付ける力

2. 思考力・判断力・表現力

- ・ 聴く、話す、読む、書く力、他者との良好な関係を構築するためのコミュニケーション能力
- ・ 音楽等の文化活動

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

他者の気持ちを理解し協働して活動することができる力

【児童教育専攻】

1 求める学生像

1. 優れた洞察力と豊かな個性・行動力を持った人
2. 教師を目指す上で十分な基礎学力を身に付けている人
3. 知識や技能を活用して課題を探究し、その解決に向けて考察できる人
4. 児童等の成長を喜び、将来、教師として児童等の教育に関わりたいという強い意志を持っている人
5. 豊かなコミュニケーション能力を持ち、多様な人々と協働して様々な問題に積極的に取り組める人
6. 教育に対する熱意と使命感を持っている人

2 入学前までに身に付けておいてほしい力

1. 知識・技能

高等学校までに共通して学ぶ教科・科目についてのバランスのとれた幅広い基礎学力と基本的な生活習慣を身に付ける力

2. 思考力・判断力・表現力

社会に幅広い関心を持ち、主体的に考えようとする態度や聴く、話す、読む、書く力、他者との良好な関係を構築するためのコミュニケーション力

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

自分の考えを持ち、様々な活動への積極的な参加

◆心理臨床学科◆

1 求める学生像

1. 人の心と行動、人と社会との関係について関心を持っている人

2. ひとりひとりがかけがえのない存在であるという考えに基づき、人間の尊厳に対して強い関心を持つ人

3. 心の問題・精神保健福祉・スクールソーシャルワーク・社会問題に関心を持っている人

2 入学前までに身に付けておいてほしい力

1. 知識・技能

高等学校までに共通して学ぶ教科・科目についてのバランスのとれた幅広い基礎学力と基本的な生活習慣を身に付ける力

2. 思考力・判断力・表現力

・自分の考えを適切に伝えとともに他者の意見に耳を傾けて共感する力

・文章を読み解く力と論理的に思考・判断・表現する力

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な人々を理解・受容し、人々と協調しながら様々な活動に自分らしく取り組む態度